

The 2nd International Symposium on Dynamics of Physiological Processes in Woody Roots, September 26–30, 1999 in Nancy, France 報告

糟谷信彦

(京都府立大学農学部)

フランスの国際シンポジウムに初参加し研究発表(ポスター)を行った。筆者は生理学が専門ではないが生態学的な Session も含まれていたため主としてそちらを目的として参加した。その様子を以下に報告させていただく。開催地の Nancy はパリから電車で3時間ほど離れたところにあり、アールヌーヴォーを生んだ町として知られている。シンポジウムの参加者は全部で162人で、国別の参加者数をあげれば、地元フランスが49人、続いてドイツ20人、アメリカ19人、スウェーデン17人、フィンランド15人、イギリス8人、ベルギー・スイス各5人、カナダ4人、日本・オーストラリア・アイルランド各3人、他8カ国の合計20カ国からの参加があった。発表は全て英語で行われた。

シンポジウムは4つの Session にわかれており、タイトルは以下の通り(括弧内は題数)

Session 1. Assimilate allocation and partitioning in roots (12)

Session 2. Root growth and development (14)

Session 3. Water flux (8)

Session 4. Nutrient uptake and utilization (14)

発表は高CO₂問題と菌根関連が多く、他に分子生物学や安定同位体比を用いたものも散見された。発表会場は一つであったので、全ての発表を逃さずにきけると同時に筆者には専門外の難しい講演が続くこともあった。全体を通して質疑応答は活発ではあったが相手を追いつめるような白熱した議論はほとんどなかった。質問する人は分野によってだいたい決まっており、質問を受けると演者はたいてい早口の英語をまくし立てるがその中にも突然ユーモアを交えたりするところが印象的であった。口頭発表者は論文を一ヶ月以内に提出する義務があり、これらは近い内に"Tree Physiology"というジャーナルにまとめて掲載されるとのことである。ポスター発表は全部で72題あったが、ポスターを見るための時間はわずか2時間だけであった。しかし筆者はその時間に自分の発表("Fine root dynamics in a Japanese cedar forest of Japan")を紹介したりよそのポスターに行き英語で質疑応答し、論文でしか名前を知らない研究者と交流できたことは意義深かった。これらに先立って行われたワークショップも2つあり("In situ measurements of root physiological processes"と"An evaluation of methods to assess the demographics and dynamics of tree roots"), 後者は私の専門分野であったため第一人者の一人である R. Hendrick 氏による講演を興味深く聞いた。シンポジウムの最後に、2001年名古屋で開催が予定されている第6回国際根研究学会シンポジウムの OHP がスクリーンに映し出されると、皆こういった情報には食欲でホームページの URL をメモしている人が多かった。シンポジウム終了後の現地視察旅行には、森林見学とワイン産地見学があったが、人数的には圧倒的に後者に人気があったようである。4年後の2003年に第3回目のシンポジウムが行われる予定(開催地はまだ未定)であるが、次回も参加したいと考えている。